

仏教通信 『さるべき業縁のもよほせば、いかなるふるまひもすべし』 6月

しんらんしょうにん でし ゆいえん しょうにん ちよくせつき おし か する たんにしょう たんにしょう だい じょう
親鸞聖人の弟子である唯円が、聖人から直接聞いた教えを書き記した書物が『歎異抄』です。この『歎異抄』の第十三条に、
つぎ してい かいわ あらわ
次のような師弟の会話が著されています。

とき しんらんしょうにん ゆいえん まえ わたし い しん と ゆいえん こた しょうにん
ある時、親鸞聖人が「唯円よ。お前は私の言うことを信じるか?」と問うので、唯円は「もちろんです」と答えました。すると聖人
は「それでは、人を千人殺してきなさい。そうすれば間違いない極楽に往生できるぞ」と仰るので、唯円は驚いて「私の器量で
は、そんなことは到底できません」と返答しました。それを聞いた聖人は「お前が人を殺すことができない理由は、そういう縁がお前
にないからであって、善人だから殺せないのではないのだよ。また、決して人を殺めてはいけないと思っても、もしも縁がもよおす
ならば、お前は百人でも千人でも殺してしまうのだよ」と仰り、「さるべき業縁のもよほせば、いかなるふるまひもすべし(置かれてい
る状況によって、自分はどんなに非道なふるまいもやりかねない)」と説いたのです。

だいにじせかいたいせんじ ひき じん すぐ じんしゅ じん れつとうみんぞく じんしゅ
第二次世界大戦時、ヒトラー率いるナチスドイツは、「ドイツ人は優れたアーリア人種であり、ユダヤ人を劣等民族である」という人種
みんぞく たい つよ へんけん も ねん はいせん じん たい こうげき げきか たいりょうぎやくさつ いた
や民族に対する強い偏見を持って、1933年からドイツの敗戦までユダヤ人に対する攻撃を激化させていき大量虐殺にまで至りまし
た。当時、ナチスの占領地が広がるヨーロッパに住んでいた約900万人のユダヤ人の内、三分の二が強制収容所や銃殺隊などに
しよけい きょうせいしゅうようじょ おお じん ぎやくさつ すいてい まんにん ゆうめい
より処刑されたといわれます。ポーランドのアウシュビッツ強制収容所で多くのユダヤ人が虐殺(推定150万人)されたことは有名
ですが、そのアウシュビッツ強制収容所の所長ルドルフ・ヘスは、移送されてきたユダヤ人の虐殺を計画し、実行を指示したナチ
しょうこう しかい かれ こぼんのう かぞくおも ちちおや じんぎやくさつ
ス将校でした。しかし、家庭での彼は、子煩悩で家族思いの父親であったといわれています。そのルドルフ・ヘスは、ユダヤ人虐殺(ホ
ろコースト)の罪で、戦後、国際軍事裁判により処刑されましたが、彼は異常な精神性を持つ生来の殺人鬼だったのでしょうか?

だいがくきょうじゅ はんざいがくしゃ し せんじちゅう せんりょうち もう きょうせい
オスロ大学教授で犯罪学者であったニルス・クリスティ(1928~2015)氏が、戦時中にドイツが占領地のノルウェーに設けた強制
しゅうようじょ つと じん もとかんしゅ しょくいん ちょうさ おこな しせつ いそう
収容所に勤めていたノルウェー人の元看守・職員にインタビュー調査を行いました。その施設では、ユーゴスラビアから移送された
じん じん せいきょうと たち おお しゅうよう どうよう おお ひと さつがい し
ユダヤ人、セルビア人(正教徒)、ロマ達が多く収容され、アウシュビッツと同様に多くの人が殺害されました。クリスティ氏がイ
んたビューをした時、殺害に関与したグループの元看守達は「ユーゴスラビアから来た囚人は野蛮な存在であると聞いていた」「囚人
たちの家族のことなど知らない」「囚人と会話をしたことがない」と答え、囚人達がどのような人達だったのか知らないと答えたそうで
す。それに対して、殺害に関与しなかったグループの人達は、囚人達と会話をし、家族の写真を見せてもらい、ユーゴスラビアから連行
ひとびと じぶん おな にんげん み ほうこく か ぞく わたしたち にんげん
された人々を自分と同じ「人間」として見るようになっていったと報告されています。ヒト科ヒト属の私達「人間(ホモ・サピエンス)」

かんきょう てきおう のうりよく ひじょう たか しゃかいせい きょうちょうせい すぐ しゅぞく じょうけん かんきょう
は環境に適応する能力が非常に高く、社会性や協調性に優れている種族ですが、条件や環境
しこう かんせい どんか せんそう ぼうりよく かたん えん かんきょう じょうけん
によっては思考や感性が鈍化してしまい、戦争や暴力に加担してしまふことがあります。縁(環境・条件)
じぶん なに わ じかく はんせい じせい
によっては自分が何をしてしまうか分からない、おそろしいヒトであることを自覚することで、反省と自制
たしゃ おも きょうかんてき そうぞうりよく はぐく おも
もとづいた他者への思いやり「エンパシー(共感的な想像力)」を育むことができるのだと思います。そ
ぶつきょう たいせつ じひ せいしん がっしょう しょうがくぶらいはいいいんかい
れこそが、仏教が大切にしている「慈悲」の精神ではないでしょうか。合掌 小学部礼拝委員会

